

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第120号(2017. 3. 1)
事務局 川西地区自主防災会

高松空港ビル株式会社 細松社長にお話をお聞きしました！

細松社長に経営への取り組みについてお話をいただきました。

1. 日 時 2月8日(水) 午前10時
2. 場 所 高松空港ビル株式会社 社長室
3. 出席者 高松空港ビル株式会社 代表取締役社長 細松 英正 様
かがわ自主ぼう連絡協議会 副会長 吉原 和夫
理事 樫 昭二

【高松空港ビル株式会社の概要】

地元地方公共団体、地元経済界および航空会社が一体となって空港ターミナルの建設と運営にあたる組織として、昭和62年8月1日に設立。

- 資本金 15億円
- 株 主 62名
(香川県・高松市・綾川町 50.6%、航空会社 23.2%、経済界 26.2%)
- 経営概況 平成27年度決算：事業収入 10.23億円
- 社員数 20人



【細松 英正 社長のプロフィール】

- 平成17年4月1日 香川県総務部防災局長
- 平成19年4月1日 香川県健康福祉部長
- 平成20年4月1日 香川県教育委員会教育長
(～平成26年3月31日まで)
- 平成26年4月1日 公益財団法人かがわ健康福祉機構理事長
(～平成27年6月30日まで)
- 平成27年6月24日 高松空港ビル株式会社代表取締役(～現在)



【高松空港の歩み】

- 平成1年 新高松空港開港(路線：羽田・伊丹・熊本・福岡)
- 平成4年 国際線旅客ターミナル竣工、ソウル線就航
- 平成5年 沖縄線就航 [旅客数：1385千人(国内線1324千人、国際線61千人)]

この間、札幌・名古屋・仙台・関西・
鹿児島・小松・松本の各空港との
路線が就航

平成 22 年 総乗降客数 3000 万人突破

平成 23 年 上海線が就航

平成 25 年 国際線旅客ターミナル増築工事竣工、
屋上無料化

台北線就航、成田線就航

〔旅客数：1547 千人（国内線 1456 千人、国際線 91 千人）〕

平成 26 年 運用時間の延長（7：30～21：30 ⇒ 7：00～22：00）

駐車場の拡張・整備

平成 27 年 旅客数：1780 千人（国内線 1628 千人、国際線 152 千人）

平成 28 年 香港線就航 7 路線就航（国内 3 路線、国際 4 路線）

総乗降客数 4000 万人突破



Q 1. 社長の経営方針についてお聞かせください。

A. ①「公共的施設としての機能保持」、②「企業としての健全経営」、③「地域社会との共存共栄」を企業理念とし、そのうえで、利用者の安全・安心を最優先に、利便性、快適性、機能性の充実強化を図っています。

Q 2. 経営方針に基づいた会社としての具体的な
施策についてお聞かせください。

A. 空港ビルは、竣工して 28 年が経過して
おり、耐震基準上は大きな課題は無いが、
設備については、改修が必要なものがあり、
利用者の安全と利便性、快適性の
維持のため、トイレならびにエレベーター
の改修工事を完了しました。

幸い、経営状況が好調で、施設改修・維持の資金が確保できることを有り難く
思っています。

とくに、事業収入の 3 割を占める免税売店の売り上げが、国際路線の増便に
より大きく貢献してくれています。香川県のみでなく、日本の土産として人気のある
お土産を買い求められる利用者の要望に応えられるよう、利用者の反応を
確認しながら、土産品の仕入れに尽力しています。



Q 3. 利用者・見学者などへのお楽しみ、賑わいづくりの取り組みについてお聞かせください。

A. 高松空港の特徴は、お出迎えの方が多く、到着待ちの方へのサービスとして、到着機の機影や、到着口付近の映像を見ていただける大型ディスプレイを設置して、待ち時間中のストレス感の軽減に努めています。

去年は、10月29日に“高松空港まつり 2016”

を開催したところ、4500人の方々が来場し、楽しんでいただきました。

当日は、関西地方の航空会社グループ社員で結成されたミュージックパフォーマンスチーム「空楽隊」の演奏や親子で参加した管制塔などの見学ツアー・探検ツアー、グルメブースなど楽しいイベントで大盛況となりました。

また、地元出身のシンガーソングライター“mimika”さんに高松空港のイメージソングを作曲していただき、あらゆる機会に披露しています。



Q 4. 空港ビルの大規模災害被害の低減に向けた取り組みについてお聞かせください。

A. 去年に発生した熊本地震をきっかけに、「南海トラフ地震災害を想定した事業継続計画（BCP）」（平成26年10月策定）を、より実効性の高いものにするため、見直しに取り組んでいます。

発生震度は、6弱（1000年サイクル）、5強（100年サイクル）を想定して

確認中、建物の躯体は倒壊しない強度を有しているが、給排水管や、天井上部に設置している設備については、破損の可能性について検証中です。

幸い、空港ビル・滑走路などは、強固な岩盤の上に建設されているため、地震発生による被害は軽微であり、早期の供用が可能であると想定しています。

「事業継続計画（BCP）」の見直しに際しては、訓練を通して検証を十分に行うこととしています。

熊本地震では、空港の復興が地元には大きな勇気をもたらしたと、地元の復興気運を高めたことが確認されており、その実現に向け態勢の整備を進めています。



Q 5. 四国内の「防災拠点空港」としての機能・役割についてお聞かせください。

A. 「防災拠点空港」の要件として、高松空港は、4つの機能を果たすことが求められます。

- 救急・救命活動等の拠点機能（← 発災後極めて早期の段階）
 - 緊急物資・人員等輸送受け入れ機能（← 発災後3日以内）
 - 発災後3日を目途に定期民間機の運航が可能となる機能
 - 航空ネットワークの維持及び背後圏経済活動の継続性確保
- 平成30年春に全面的な移行が予定されている新会社になっても、継承されていく機能であると考えています。

Q6. 「かがわ自主ぼう連絡協議会」に対する要望等ありましたらお聞かせください。

細松社長は、初代の防災局長として、「防災・減災の輪」創刊号に投稿をいただきました。

この度の対談内容は、会報 第120号（2017年3月1日）に掲載させていただきますが、この間の、丸亀市川西地区自主防災会を中核とする「かがわ自主ぼう連絡協議会」の活動状況について、意見・要望など、お聞かせいただきましたら幸いです。



A. 会報紙「防災・減災の輪」が長期間に亘り発行を継続されていることに敬意を表し、感謝を申し上げます。

川西地区自主防災会がその活動を認められ大臣賞等を受賞されたことにとどまらず、県内の自主防災活動活性化のため、「かがわ自主ぼう連絡協議会」を立上げ、県内全域を対象に活躍されており、今後も継続しての取り組みをお願いしたいと思っています。

細松社長さん、お忙しいなか貴重なお話を聞かせていただきまして、誠にありがとうございました。

「かがわ自主ぼう連絡協議会」といたしましても、県内の自主防災組織活動の支援に尽力してまいります。今後ともよろしくお願いたします。

事務局だより

平成29年3月

今月の事務局だよりは、会長の活動や訓練の報告です。

ざぶん賞表彰式並びに「ざぶん展」「ざぶん塾」を開催

ざぶん賞とは、ジャーナリストの筑紫哲也さんが16年前、自然を大切にする青少年育成のため、「水」「海」「川」等をテーマにした小中学生の作文を募集し、優秀作品はざぶん賞として一流の画家によるさし絵、更には表彰楯を有名な彫刻家によって作成していただくなどユニークな取組みで、全国で1万点の応募があります。

筑紫さんがご逝去された後、東大名誉教授の月尾嘉男さんが引き継がれ、2年ほど前から中国・四国ブロックのお世話をしてくれないかの要請を受け、昨年6月から活動を始め、このたび高松サンポートのかがわプラザにおいて、表彰式並びにざぶん展、e-とぴあ・かがわ(4F)においてざぶん塾を開催しました。

表彰関係につきましては、香川県と香川県教育委員会に大変お世話になり、香川県内最優秀作品として香川県知事賞、香川県教育長賞と香川県環境森林部長賞をいただくことになりました。

人類や生物を生きていくために必要な「水」、地球全体の70%が水であります。飲料水として使用できるのはわずか2.5%です。(月尾嘉男氏説明)

貴重な水資源をテーマとした小中学生の活動を側面から支援しようとするこの「ざぶん賞」、中国・四国ブロックの中で大きく底辺が拡大することを願うものがあります。

結びに2月9日から2月12日にかけて、県内多くの皆さんにお世話になったお礼いを申し上げ、ペンを置きたいと思っております。

<文：ざぶん賞中国・四国実行委員会 岩崎正朔>

編集後記

今月の防災減災の輪は、高松空港ビル株式会社 細松社長のインタビューを掲載させていただきました。ありがとうございました。

